

どうしたら防げる？高齢者の交通事故



那須塩原警察署では高齢者学級などでゲームや替え歌を交えて、交通安全啓発活動を行っています。

交通事故の死者数は年々減少傾向にあり、平成28年に全国で起きた交通事故による死者数は、警察庁のまとめによると67年ぶりに4,000人を下回りました(3,904人、前年比5.2%減)。

一方で、65歳以上の高齢者が占める交通事故の割合は高くなっており、高齢者が事故の被害者になるだけでなく、加害者になるケースも目立っています。超高齢社会が進展する中、高齢者の交通事故を防ぐため、高齢者の事故の原因を知るとともに、尊い命が交通事故の犠牲になることのないよう、日頃から安全運転を心掛けましょう。

平成28年1月1日から12月31日までに那須塩原警察署管内で発生した人身交通事故の発生件数(概数)等については、表1・表2のとおりです。

人身交通事故は、前年と比較し減少傾向にあります。昨年の事故に占める高齢者の割合は36%、交通事故で8名が死亡しています。このうち6名が65歳以上の高齢者(表1)、全員が60歳以上でした。高齢者の死亡事故の多く



右:交通総務課長 田島嘉之氏
左:交通企画・規制係長 戸井田拓郎氏

那須塩原警察署交通総務課で日々交通事故削減に取り組んでいるお二人にお話を伺いました。

平成28年那須塩原警察署管内の人身交通事故
〜高齢者が絡む事故〜

表2 事故形態

①人対車両

区分	歩行中	横断中	その他
発生件数(死者数)	6件(1人)	21件(5人)	7件(0人)

②車両相互

区分	正面衝突	追突	出会う
発生数(死者数)	13件(0人)	141件(1人)	91件(0人)
区分	追い越しすれ違い	右左折時	その他
発生数(死者数)	7件(0人)	32件(0人)	15件(1人)

③車両単独 発生数(死者数) 38件(0人)

表1 人身交通事故の発生件数、死者数、負傷者数

	那須塩原警察署管内	うち高齢者	高齢者の割合
発生数(前年比)	371件(-66件)	134件(-24件)	36%
死者数(前年比)	8人(-4人)	6人(±0人)	75%
負傷者数(前年比)	494人(-79人)	84人(-10人)	17%

は、自宅付近で発生しており、車の進行方向右側から横断し、横断中に事故に遭うケースが多いのが特徴です(表2①・図1)。

車両相互の事故では、追突事故が多いことから(表2②)、速度を控え、車間距離を保ち、漫然と運転しないことが重要です。

危険箇所には注意看板や道路標識が多数あるので、そのような場所ではアクセルペダルから足を離し、いつでもブレーキが踏める状態にしましょう。

③夕暮れから夜間の外出
夕暮れから夜間は、ドライバーが歩行者を発見しにくい。車のライトは左寄りに照らされるため、右側は見えにくい。

②運動能力の低下
自分では車が来る前に道路を渡り切れると思つて横断するが、運動能力の低下により横断に時間がかかる。

高齢者の事故の発生原因

①横断歩道を渡らない

近くに横断歩道があるにもかかわらず、横断歩道を渡らない。

図1 道路を横断中の死亡事故の例

